

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <青森県 乳製品 >
学校給食用牛乳供給が休みになるゴールデンウィークにかけて更なる需給緩和が懸念されるが、外食産業やホテル関連の需要が回復傾向にある。
2. <神奈川県 ひもの >
原材料等を含めた諸物価の値上げと円安が新たに経営を圧迫し始めている。GW中の売上増加には期待どころだが、原材料等値上げと円安への対応が求められる等業界を取巻く環境は厳しい。
3. <富山県 パン >
原材料等の価格の値上がりが続いている。再度、販売価格の値上げをしたいができない。生徒数の減少が、今後の給食事業の展開に影響しそうで不安である。
4. <三重県 醤油味噌 >
昨年度は当組合員の廃業による脱退が2件あった。4月から値上げを実施した事業者もあるが、原材料他諸経費の上昇分をすべて価格転嫁できていない状況である。
5. <京都府 パン・菓子 >
原材料の値上げの影響を受け、あらゆる商品の価格改定を行ったが、原材料の値上げはとてそれどころではなく、ガソリン代も上がり配送経費も大幅に上昇しており利益幅が縮まる一方である。
6. <長崎県 冷凍水産食品加工 >
製品価格の値上げは殆どのメーカーで実施されているが、原料及び副原料、包装資材、燃油等の価格も数回上昇しており、転嫁が追いつかない状況である。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
あらゆる資材、燃料費の値上げが相次いでいるが、コスト増加分を加工賃に転嫁できない状況。県内縫製業界の受注量は戻りつつあるが、利益悪化と人手不足で危機的な企業が増えている。
8. <栃木県 縫製 >
海外生産品がコロナ感染のため、国内へシフトしているため受注は満杯状況だが、当初の企画が海外生産予定だったものであるため、工賃が安く喜べない状況である。
9. <石川県 ねん糸等 >
売上高と収益状況は共に増加傾向であるが、電力費上昇を含めた費用は増加傾向である。今後の問題点は、エネルギーコストの上昇、人手不足及び国際競争力の強化（品質、価格）である。
10. <滋賀県 綿織物 >
軽布・厚織において、コスト上昇分を十分に転嫁できていない。原糸、重油、棚卸材等の価格変動が短期で、見積等の対応が困難である。
11. <愛媛県 タオル >
人流の増加に伴い店舗への来店は増加傾向にあるが、受注・生産の好転には至っておらず、依然厳しい状況が続いている。ロシアとウクライナの戦争により、更なるコスト上昇が懸念される。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
コロナに関する行動制限が無くなり人の動きが活発になったことや、前年の買い控えの反動から前年同月比商品の動きも良くなった。このまま安定的に推移してほしいと願う。

木材・木製品製造業

13. <秋田県 外材 >
製品の引き合いは良好だが、原木の高値が続いている。特に、ロシア材の輸入禁止措置を受け、国産カラマツ原木の引き合いが強まっている。
14. <埼玉県 木材・木製品 >
広葉樹原木の入荷は順調であるが、針葉樹原木は相変わらず低調である。また、製紙会社から針葉樹チップの不足ということで増量の要請が来ている。
15. <新潟県 製材 >
合板の不足、価格上昇が本格的に深刻化し、木材よりも合板不足に陥っている。メーカー、問屋へ問い合わせでも改善する見込みが全く見えず先行きが本当に不安である。

16. <長野県 一般製材 >
ウクライナ戦争の影響でロシア産の木材の輸入がストップし、またウッドショックに拍車がかかっている。輸入はしているものの以前より品質が落ちている割に高価のようである。
17. <香川県 木材 >
ウクライナの影響でロシアからの輸入材が品薄になり、価格は高止まりが続いている。同じく住宅関連材料も輸入が難しくなっているため、住宅着工を見合わせる傾向にあり流通が悪い。
18. <宮崎県 製材(プレカット) >
4月の実績はほぼ前年並み(98%)となった。木材以外のコスト高も進み、消費者の負担が大きく増えている状況で、今後着工数の減少が予想されるため、今期の見通しはあまり明るくない。

紙・紙加工品製造業

19. <北海道 加工紙 >
段ボール原紙・白板紙の値上げを受け仮需が発生したため、売上高・在庫数量・収益状況・設備操業度が増加または好転した。道北地区では4月以降需要が分散され始めている。
20. <茨城県 段ボール >
4月から仕入価格が上がり、客先に販売価格の改定をお願いしているが、すぐには改定出来ておらず、収益が悪くなっている。受注量は値上がり前の前倒し注文もあり、悪くはなかった。
21. <山梨県 紙 >
原材料高騰分を価格に転嫁したいが追いつかないほど値上がりしている。各原材料の値上げの足並みが揃わないため、製品ごとに対応が難しい。
22. <愛知県 段ボール >
新型コロナ規制がGWに発令されないとの見込みから土産物、食品関係の引合いが増加した。また、人の動きが活発になると見込まれ、ギフト関係を含め全般的に取引が増えてきている。
23. <大阪府 古紙収集加工 >
新聞古紙の発生は、前年同月と比較しても厳しく、また白物古紙もペーパーレスにより大幅な減少となっており、段ボール古紙だけが前年並と予想され、業界全体としての景況は悪化している。
24. <高知県 機械すき和紙 >
県内家庭紙メーカーの出荷状況は、厳しい中でも大型連休を控え、やや回復の兆しは見られる。現在の製品価格では出荷するだけ赤字となるため、値上げ交渉に注力しているが難航している。

印刷

25. <福島県 印刷・同関連 >
徐々に仕事に戻ってきたと感じる企業、まだまだ厳しいと感じる企業とで景況感は様々である。各社とも原材料や燃料費の高騰により、利益率の圧迫が懸念される。
26. <東京都 印刷 >
新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が発生している中で、設備の稼働率が下がっている事業者が出ている。仕事量は資材値上がり前の仮需要の動きもあり潤沢である。
27. <愛知県 印刷 >
印刷用紙の価格は3月から約15%上昇している。顧客に価格転嫁を要求すると、先方も予算があるため、部数やページ数を減らされ収益改善に繋がらない。
28. <和歌山県 印刷・同関連 >
印刷資材が高騰しているが、今までの取引先に価格転嫁しがたく、ますます収益状況が悪化する恐れがある。
29. <徳島県 印刷 >
毎年のことではあるが3月の年度末が終わると、とたんに閑散期になる。コロナ禍でイベント関連の印刷物がなくなり、官公庁の入札では益々激しい取り合いが続いている。
30. <熊本県 印刷 >
全ての材料費が4月より20%前後値上がりし、粗利が大きく減少することは間違いなく、今後の利益確保に翻弄されるだろう。

化学・ゴム

31. <東京都 ゴム製品 >
原油高の影響で、光熱費、運送費など諸経費が値上りし、厳しい状況にある。電力費は前年同月比で145%となっている。価格転嫁を取引先に交渉しているが、値上げに応じてもらえない。
32. <長野県 プラスチック製品 >
先月同様、得意先からの受注増により成形品の売上は昨年同期を上回る結果となった。上期は受注増の見込みであるが、ウクライナ紛争の影響により電気代が予想以上に高騰している。

33. < 岐 阜 県 プラスチック >
電子材料分野は好調であるが、コロナやウクライナ情勢もあり、全く先が見通せない状況である。燃料費調整単価は上昇、樹脂原料価格は天井が見えず、更なる採算悪化を覚悟せざるを得ない。
34. < 兵 庫 県 ゴム製品 >
上海では、依然ロックダウンが続き資材の入荷が遅れており、生産に支障が出始めている。加えて、電気、ガソリン、資材価格の値上げが続いており、メーカーにとって厳しい状況が続いている。
35. < 島 根 県 プラスチック製品 >
目先の製品売上、受注状況については引き続き堅調で推移している。原材料や資材価格高騰が依然収まらず、入手性悪化の影響により、否応なく在庫を確保する必要がある。
36. < 広 島 県 工業用ゴム製品 >
先月から大きな変化はなし。円安のメリットを享受出来るほど自動車生産が回復する見込みは立っていない。合成ゴムは現状価格転嫁が難しく、業界全体で厳しい状態が続いている。

窯業・土石製品製造業

37. < 秋 田 県 生コンクリート >
4月の出荷数量は前年と同量程度であった。各地区とも大幅な原材料等の価格上昇に対し、取引先の理解を得られず厳しい状況となっている。
38. < 群 馬 県 砕石 >
年度始めのため公共・民間工事とも受注が低調で、売上高は減少した。また、原材料価格の高騰により収益状況は悪化。資金繰り・景況感も悪化している。
39. < 愛 知 県 陶器瓦 >
燃料、原材料等の高騰から会員各社では値上げを行っているが、ウクライナ情勢の影響などから十分なものにはなっておらず、更なる値上げも必要となってきている。
40. < 鳥 取 県 生コンクリート >
軽油の値上がりでダンプの運賃値上げと自社のミキサー車の大幅な輸送コスト上昇で、生コン販売価格の検討が急務となっている。
41. < 香 川 県 石材加工 >
4月以降、工具類や資材等の大幅な値上げがあった。受注数も伸びず、ますます利益を圧迫している。値上げに対して賛否両論があり、実際に値上げに踏み切る事業所は少数である。
42. < 佐 賀 県 陶土 >
4月の陶土共同販売高は対前年同月比約93%、対前月比約92%で推移する見込み。少し動きが戻りつつあった昨年4月と比較しても動きが鈍いように感じる。

鉄鋼・金属製造業

43. < 秋 田 県 鉄鋼 >
昨年来続く原材料高は、ウクライナ情勢の影響もあり拍車がかかっている。加えて昨今の円安は、輸入に依存をせざるを得ない鉄鋼の原材料の、さらなる価格上昇要因となっている。
44. < 千 葉 県 機械部品 >
前年同月比及び前月比ともに非常に良くない。コロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻により、原油高、世界的な物流の混乱、材料高、円安と好材料が何も無い。
45. < 東 京 都 ダイカスト製品 >
自動車向けの売上が伸び悩んでいる。材料価格の値上がりが異常で、1年前の1.8倍となっている。
46. < 岐 阜 県 金属製品（輸出） >
インバウンド向けの刃物は全く受注がないが、海外からの包丁の注文は多い。円安の影響等により、鋼材のほかプラスチック柄、木柄など全ての材料が値上りしており、収益が悪化している。
47. < 和 歌 山 県 金属製品（輸出） >
購入材料及び調達部品の価格上昇が続いている。また、部材のリードタイムが長くなってきている。円安が進み、今後どのような影響が出てくるのか注視していかなければならない。
48. < 福 岡 県 金属素形材製品 >
半導体等の部品不足、原材料の高騰等、業況はあまりよくない。特に自動車メーカーは軒並み影響を受けているようで、消費者の需要があるのにモノが満足に作れないという状況である。

一般機器製造業

49. < 北 海 道 金属製品 >
コロナ禍で低迷していた海上荷動きの急拡大により海上市況は徐々に回復しつつあり、新造船マーケットも好調で船価の上昇も続いている。

50. <山形県 その他の電気機械器具製造業>
精密加工分野は売上、収益が増加しているが、その他の業種は受注量が減少している。仕入価格前年対比でおよそ5%程度、販売価格はおよそ2%上昇している。
51. <岐阜県 金型>
鋼材等の原材料価格の高騰が収益を圧迫するところまできている。工具、部品、備品の値上りも止まらず利益を圧迫するばかりである。このままでは本当に不安しかない。
52. <大阪府 印刷製本機械製造業>
ロシアによるウクライナ侵攻の影響で半導体を中心とした部材・部品不足が顕著になっている。完成品にならない仕掛品が増え在庫が増加、資金繰りが悪化している。
53. <広島県 一般機械器具>
期末(3月)での出荷増の反動により、前月比30%減少、前年同月比15%減少となった。また、工作機械の受注額は好調をキープしている。
54. <愛媛県 鉄工>
前年までの原材料値上げに加え現在は急激な円安、上海等のロックダウンに伴う物流の混乱により非常に厳しい状況にある。計画的な生産ができないと全ての予定に狂いが生じる。

電気機器製造業

55. <埼玉県 通信機械器具>
精密機器の売上は減少している。円安に関しては、今後の影響が予想される。
56. <東京都 照明器具>
半導体部品の供給不足による電子部品の需給が逼迫し、納期遅延、納期を確定できないという問題が生じている。
57. <静岡県 電気機械器具>
中国のロックダウンの影響を含めて部品調達問題が継続発生しており、生産計画の変更が頻発している。また、原材料や副資材などの値上がりが続いており、親企業と連携し対策中である。
58. <愛知県 配電盤>
電用品価格の上昇で納入価格を上げざるを得ない状況となり、業界で値上げを依頼することになった。現在、値上げ依頼のための文書を作成している。
59. <兵庫県 電子部品・デバイス・回路>
自動車の生産は、半導体の逼迫状況が続いており、また、中国でのロックダウンの影響による部品調達の遅延により、減産の見込みである。来月以降もこの影響が続くと思われる。
60. <広島県 電気機械器具>
1~2月におけるコロナ渦や資材・部品の調達難で停滞していた反動で、売上は前月比20%増加、前年同月比10%増加となった。今後も受注は増加する見込みである。

輸送用機器製造業

61. <群馬県 自動車・同附属品>
SUBARUではエンジンの不具合による生産・出荷停止、ホンダでは中国のロックダウンに伴う部品調達に支障をきたし減産となった。この影響で売上高は減少し景況感も悪化した。
62. <静岡県 輸送用機械器具>
新電力会社による電力供給の契約打ち切りや新規申込中止、電力料金の高騰など事業継続に致命的な要因が発生している。国レベルの救済策を出すことが喫緊の最重要課題である。
63. <島根県 自動車部分品・付属品>
4月の売上額は前期比で±0%となった。自動車メーカーは生産回復を目指しているが、半導体含む部品不足は如何ともしがたく生産調整が都度発生している状況である。
64. <広島県 自動車>
自動車業界において、操業が不安定な状態が続いている。全体的に仕事量が低下している。
65. <愛媛県 造船>
組合員の仕事量は微増が殆どで回復基調にあるものの、元の状態まで戻っていない。鋼材の高騰も続いており厳しい状況が続いている。
66. <大分県 造船>
各造船所の受注はバルク船を中心として活発であるが、船価が低く、工事予算が少なく、組合各社も収益状況の悪化が懸念されている。各社対応に苦慮している。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
昨年同様厳しい4月となった。百貨店等の動きはなく、観光客の動きも鈍かった。一方、殆どの原材料が値上りし、販売価格に上乘せするしかない状況であり、先行き不安を感じている。
68. <東京都 工業塗装 >
依然として、部品不足による仕事量の減少が続いている。今後の物価上昇や円安が経済に及ぼす影響が心配である。
69. <神奈川県 工業中心の複合業種 >
各社、得意先等の状況により受注の増減に差があり、安定しない状況が続いている。原材料の高騰、原油高、輸送コストの上昇は続き、先行きの見えない状況である。
70. <山梨県 貴金属・宝石製品 >
前年同月に比べ、売上・収益ともに▲50%となった。着飾って外出する機会が減少したことが原因だと考えている。
71. <愛知県 アウトソーシング >
供給部品・半導体不足で自動車業界は工場の稼働停止における生産調整が続き、人材供給業種においては浮き沈みが激しく、この状況がいつまで続くのか先が見通せない状況に不安が続く。
72. <奈良県 毛皮革 >
今年度は成人年齢の引下げにより新成人の人数増加が確実なため、成人式用のストールの注文が多く入っている。

《非製造業》

卸売業

73. <岩手県 野菜果実 >
4月下旬からゴールデンウィークがはじまり、コロナ禍の影響は見られるものの、徐々に市内の飲食店は人出が戻ってきているようである。
74. <東京都 玩具 >
前年同月と同等の売上がある。キャラクター商品はキャラクター毎に好不調が分かれるが全体としては不調。一方、知育関連の商品が入園・入学のプレゼント需要により好調だった。
75. <神奈川県 リサイクル >
古紙市況は、アジア向けの輸出の引き合いは活発化してきており、前年比で中国向けのマイナス分を取り戻す方向に向かっている。今後は国内回収量と在庫の確保が課題となる。
76. <愛知県 陶磁器 >
原油価格高騰により電気、ガス、燃料代に値上げがあり業種問わず大変な状況。5月以降に商品に値上げ分が転嫁出来ないと厳しい。
77. <山口県 乾物 >
入庫状況は順調であり売上は昨年と同等である。3月比でも増加で推移している。主要物品の海苔、カキは特に順調に出庫されており、カキは倍増である。コロナの影響はない。
78. <沖縄県 自動車 >
コロナ禍の中で先が見えず、現在の車を車検に入れる方が多く、また半導体の件で新車の納期が遅く、中古車の玉不足で価格が上昇している。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
4月に入ってもコロナの感染者数は収まらず外出を自粛する人がいる一方、コロナへの警戒感が以前より薄れ外出する人も増えはじめ、旅行関連や飲食店も売上が昨年より増加傾向にある。
80. <青森県 家電 >
県内でのコロナ感染者数の高止まりが続くなか、気温の上昇と共に季節商品のエアコンの動きが活発化した。AV商品や白物家電などの動きは例年より鈍いと感じる。
81. <新潟県 化粧品 >
4月になり、人の動きは少しずつ戻ってきている。しかし、化粧品はマスク生活が続いているためメイクの動きが弱い。全体として単価が低下している。
82. <福井県 食品 >
原材料の値上りで販売価格は上昇傾向にあるが、売上は前年比減少傾向が続いている。客単価は概ね100%を維持。電気料など経費負担の増加から、収益への影響が懸念される。
83. <香川県 電機 >
商品・部材の品不足に加え価格の値上げ、特にモノ不足で売上が上がらない組合員の脱退に歯止めがかからず、組合支部の統合が取り沙汰されている。
84. <鹿児島県 青果食品 >
前年対比120%、累計前年比120%。長く続くコロナウイルス感染症の影響で、青果業は2極化していると感じる。量販店は前年比を上回るものの、小売店・納入業者は苦境が続いている。

商店街

85. <福島県 商店街 >
コロナ影響は確かにあるが、駅周辺や郊外店は盛況となっている。一方、中心市街地は殆ど人がいない状況が続いている。駅前再開発による店舗移転で完成迄にどれだけ残れるか不安である。
86. <群馬県 商店街 >
賑わいを取り戻し売上高は増加した。また、仕入価格の上昇に伴い販売価格も上昇傾向にある。一部の商品の不安定な入荷状況を懸念している。
87. <石川県 商店街 >
コロナのまん延防止措置も開けて少しずつ客足は戻った感はあるが、まだ本格的には戻ってきていない感じがする。またGW前の静けさなのか月の終盤には盛り上がりを欠いた。

88. < 岐 阜 県 商店街 >
まん延防止等重点措置の解除後は人出も多くなった。春の陽気も重なり雰囲気は良くなったが販売に結びついていない。コロナ禍前に戻るにはしばらく時間がかかりそうである。
89. < 奈 良 県 商店街 >
医療関係ではコロナの影響がまだ響いていて、受診控えにより薬局への患者数も減少傾向となっている。また、医薬品の供給が滞っている状態が1年以上も続いている。
90. < 高 知 県 商店街 >
職場の移動で人が大きく動き出した。地元の人達はまだ出歩く頻度は少ない。小規模のイベントを3度開いた。県外客は日に日に増え始めている。観光協会のクーポン券にも期待している。

サービス業

91. < 宮 城 県 自動車整備 >
全体として大きな変化は見られないが、4月の車検台数は若干の減少が見られた。また、原油価格上昇等により電力料金や油脂類及び各用品類の仕入業者より値上げの連絡が多くなっている。
92. < 栃 木 県 理容 >
昨年はコロナ禍により来客数が減少し、収益面等で大きく影響を受けていたが、今年度は昨年と比較すると国からの行動制限が解除になり、少しずつ経済状況も良い方向に向かいつつある。
93. < 新 潟 県 旅館・ホテル >
県民割の効果があり昨年度と比べれば増加している。宴会等がないため、経営的には大変である。地域差、施設差がある。
94. < 和 歌 山 県 ガス >
少子高齢化に伴い家庭でのガスの使用が減少している。得意先でガスを使用する飲食店・製造業は未だコロナの影響で休・廃業、生産が減少している。
95. < 山 口 県 普通洗濯 >
衣替えシーズンに入り忙しくなってきた。売上は、組合員店舗でヒアリングする限り前年同月よりも増えている印象である。しかし、業界全体としてみると良い企業、悪い企業との格差がある。
96. < 大 分 県 旅行 >
GoToトラベル事業の開始を待っているが、先が見えない不安な状況。今は、県内の旅行と隣県の旅行に取り組むしかないが、助成金が底をついた旅行社は動けず困っていると聞く。

建設業

97. < 秋 田 県 一般建設 >
各種建設資材の高騰が相次いでいるなか、受注確保に向けた価格競争が強まってきており、資材高を考慮しながらも、より一層コスト削減の取組が必要となっている。
98. < 埼 玉 県 内装工事 >
4月より壁紙・床材等が再値上げされており、販売価格が上昇している。売上高は増加しているが、仕入単価値上分を商品価格に転嫁できない業者は収益が悪化している。
99. < 富 山 県 鉄骨・鉄筋工事 >
鋼材の値上りに伴い、鉄骨単価も少しづつ上昇している。鋼材や溶剤、塗料、輸送費等の値上り分が加工費へのしわ寄せとなり、重大な問題となっている。
100. < 山 梨 県 型枠大工工事 >
仕事量が多いものの建材の高騰分を価格転嫁できず、請負価格が上がらず厳しい経営状況が続いている。また、職人の不足・高齢化が進み、事業承継の問題から廃業を決めた組合員がいる。
101. < 三 重 県 水道工事 >
給湯器等は入手困難が続いており、トイレ関連では便座の入手がまだまだ困難な状況である。また、手洗いの自動水栓の入手も困難であり、使用中の故障の対応に苦慮している。
102. < 福 岡 県 床・内装工事 >
今年に入り各材料メーカーは値上げを行っており、上代を上げるならまだしも納入掛率をアップするメーカーも多く、価格転嫁し難い状況となっている。

運輸業

103. < 青 森 県 一般貨物自動車運送 >
長距離輸送の荷物が減少してくる時期で、代替品の情報が少ないなか、原油高による燃料価格の高騰・運賃価格の改定が進まず、大変厳しい状況となっている。今後の見通しが立たない。
104. < 栃 木 県 貨物自動車運送 >
新型コロナウイルス感染、半導体不足により物量が減少し、それに加えて燃料価格の高騰で厳しい。また、荷主に対して増加したコストを価格へ転換することも難しい状況である。

105. < 山 梨 県 道路旅客運送 >
タクシーの稼働が微増となってきているが、燃料価格の上昇などによる経費の増加に追いつかない状況。外国人観光客の入国再開などに期待したい。
106. < 静 岡 県 道路貨物運送 >
4月の荷物情報は昨年と比べ増加傾向であった。しかし、中国上海のロックダウンの影響で、現地工場の稼働停止や生産調整による車両の空きが一部で見られた。
107. < 奈 良 県 貨物運送 >
燃料の高騰が続き、経営を圧迫していることから、運賃交渉を行っている。大企業との交渉は理解を得られることが多いが、中小零細の荷主との交渉は難航している。
108. < 熊 本 県 沿海海運 >
用船料も上がりつつあり、コロナ前の水準を超えたところもある。新たに船を造る話もあり収益状況は順調であるが、「働き方改革」の影響もあって人手不足が続いている。

その他の非製造業

109. < 宮 城 県 不動産 >
例年通りの企業の人事異動が行われているようで、賃貸マンションの引き合いは昨年と比較して多かった。
110. < 千 葉 県 輸出入 >
成田空港の4月旅客数は、前年比230%まで回復してきたが、外国人客が特に増えた気配は感じられない。客層はほぼ日本人旅行客が中心で、まだコロナ前の状況には至っていない。
111. < 神 奈 川 県 不動産 >
景気低下に対する不安感からか、先月より一気に購入意欲の陰りが感じられる。住宅については設備の納期遅れによる期日までの引き渡しができない事案が多発している。
112. < 富 山 県 不動産取引 >
大きな変化はないものの、新築住宅着工戸数は穏やかに持ち直しつつある。
113. < 山 梨 県 老人福祉・介護 >
需要は増えているが人手が足りず断っている状況。依頼を受けることができない状況が続き、依頼自体が減少してきていると感じている。
114. < 岡 山 県 信用組合 >
コロナ影響は回復傾向にあるが、原油高騰による収益力悪化の影響が顕著に表れている。資金繰り支援を手厚く行うとともに、目先の課題解決を図る伴走支援を強化していきたい。